

# 会員生協のボランティア活動紹介

福井県生協連合会では、会員生協（組織または役職員・組合員）が行っているボランティア活動に対して助成金をお渡しし、活動を応援しています。

## 福井県 学校生協

福井市・足羽第一中学校(藤田清憲校長)では、年間31のボランティア活動を実施しています。8月と10月には、校区内の社会福祉施設「うめのき」「すだちの家」のみなさんと、吹奏楽部の演奏や、ゲームと一緒に楽しむ交流活動を行いました。また、校区内の公民館が主催する区民体育大会、文化祭や敬老祭りに、生徒がボランティアスタッフとして参加したり、吹奏楽部が演奏を披露したりしました。

生徒たちは、ボランティア活動や演奏

## 中学生が地域のために活動。吹奏楽などで楽しく交流



▲8/19「うめのき」のみなさんと

活動を通して、地域の良さを見つけ再確認することで、郷土への愛着が高まっています。このような活動を今後も継続していきたいと考えています。

◀10/1 六条ふれあいまつり



## 福井県 民生協

県民せいきょうでは、昨年2017年10月生協ボランティアセンターを立ち上げ、アクティブシニア層のボランティア登録を呼びかけています。活動への参加を通じて、いきいきとした地域づくりや生きがいづくりを応援します。

### ・ボランティア活動

『きらめき応援団』介護施設きらめきでのレクリエーションやゲーム、話し相手などのボランティアを募集中。

『レインボーファーム応援団』農業法人ふくいレインボーファームでの野菜の植え付け、草取りなどボランティアを募集中。

### ・有償の活動では

『きらめきくらしのサポート サポーター』高齢者や子育てでそのうちや食事づくりなど、自立したくらしをサポートする有償の家事援助サービスです。



▲コーヒー達人塾



同時に男性の活動参加をを広げ、ボランティア活動にも活かしてもらおうと、10月～2月「男のシニア達人塾」5回シリーズを開催。「コーヒー」「スマホ」「健康マージャン」「そば打ち」「地酒」をテーマに、生協や地域で活動するボランティアにつなげていきます。シニア達人塾には男性だけでなく、女性含めて多くの参加があり、ボランティアを呼びかけました。

◀健康マージャン達人塾

## 福井県 医療生協

昨年12月、福井より福島との連帯・交流プロジェクトに7名が参加しました。原発事故から6年9か月が経過した今も復興には程遠い現実を目の当たりにしました。参加者からの感想を紹介します。

『原発事故による被害の深刻さ過酷さは、知り尽くしているつもりでした。それに付け加えることは無いと思っていたが、私の知識こそがそのごく一部であったことを知った。』

今回の体験で、新たに得たものは、無数にある。そのうちのひとつが、原発事故によって被害を受けた地域を、頭の中で1枚の完成された地図として俯瞰できたことである。これは、ネットの動画や書籍・新聞記事などによる詳細な解説をいくら目にしても、全体が結びつかない。連続した俯瞰図として、地名や道路や建物の位置関係が理解できた。

もう一つは、逆説的だが、原発の持つ魔力の大きさである。浜通り医療生協・前理事長の伊東達也氏の語る、福島における原発立地の歴史は、人間という生き物が持つ社会性と無縁ではないだろう。その魔力の大きさが、知恵ある人間を容易に誘導してしまった。それをおろかだとも言えない。原発の是非を人に語る時、一工夫が必要だと強く感じた。』

## 福島との連帯交流プロジェクトに参加して

## 菅浜生協

### 5月29日 高槻市立冠中学校炭焼き体験

5月29日(月)9時～12時に高槻市立冠中学校2年生12名による、炭焼き体験が行われました。最初に浜野健治さんより森の大切さ、炭焼きの歴史、炭ができるまでの過程につき説明があり、その後チェーンソーによる木の切断、炭材の窯入れ、出来た炭の箱入れを順番に体験しました。体験後は猪のバーベキューと浜野さん秘伝の味噌汁を堪能して、身も心も腹いっぱい帰ってもらいました。楽しい思い出となれば幸いです。



## 福井 県庁生協

### 地域の清掃と整備活動に取り組みました

11月14日(日)、自治会主催の一斉清掃の後、壮青年会の会員にて地区内の整備ボランティアを行いました。内容は、公園内の花壇の草刈りと水路脇の土砂の撤去作業の二組に分かれ、それぞれ作業に取り組みました。公園内の花壇は、6月に開催された「じゃがいも収穫祭」の後、花の苗を植え公園内の美化を図る予定でしたが、諸般の事業により今年は花を植えることが出来ませんでした。収穫祭の後、草刈り作業を数回行ってきましたが、11月に入ると再び雑草が生え、見栄えも悪くなってきましたので、草刈り機を使ってきれいに仕上げました。



一方、町内の中を通る水路脇には、幼児の背丈以上に成長した雑草が生い

茂り、景観を損ねています。これまで自治会の一斉清掃のたびに、雑草撤去を繰り返してきましたが、堂々巡りの感否めず、今回思い切って土砂ごと撤去することになりました。撤去した土砂の量は、なんと軽トラック約2台分です。土砂を軽トラックに乗せる作業は大変きつ、肌寒い11月にもかかわらず汗水を流しながら、作業に動きました。



## 3.11 を忘れない

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

### 復興公営住宅、家賃上昇に不安

「家賃を払いきれなくなったら、恥ずかしながら生活保護の手続きをした方がいいですよ」。石巻市のぞみ野第二町内会長の増田敬さんは、住民にそう話すことがあります。

復興公営住宅の入居者のうち政令月収(※1)8万円以下の低所得世帯は、国の「家賃低減事業」で家賃が低く抑えられています。5年間は少ない負担で住むことができますが、6年目から少しずつ上がり、11年目には一般の公営住宅と同じになります。

宮城県の復興公営住宅入居世帯のうち約7割は政令月収8万円以下の低所得世帯で、その多くは高齢者です。

「石巻市の場合、政令月収0円の人の家賃は当初6,700円で11年目以降は約3倍になります(※2)。今はまだ実感できませんが、収入の少ない高齢者が安心して入っていられる状況にありません」。

また、災害などで財産を失った時に適用される「雑損控除」も期限(東日本大震災は特例で5年)があります。雑損控除が無くなると政令月収が上がり、家賃にも影響します。



復興公営住宅は、被災した人たちにとってようやく落ち着いた「安住の地」です。のぞみ野第二町内会は生活困窮世帯の町内会費を免除したり、家賃の  
◀「私自身も家賃が3倍になったら大変。他の住民も不安だと思う」と話す増田敬(ますだ・けい)さん。

問題も気軽に相談できるよう顔なじみの関係を増やしたり、互いに支え合うコミュニティづくりに取り組んでいます。



▲石巻市新蛇田地区の復興公営住宅。昨年11月地名が「のぞみ野」に変更になりました。

「家賃を払えずに復興公営住宅を出ていく人が多くなれば、それだけで社会問題になるでしょう。特に高齢者は民間アパートに入るのが難しいので、ここを出たら本当に困ると思います。私たちが、家賃上昇に

備えて生活設計を立てようと話し合っていますが、行政には低所得世帯も安心して住み続けられる施策を考えてほしいです」。(※3)

被災自治体は家賃低減事業の延長を国に要望していますが、復興庁は「家賃補助は自治体ごとに対応が可能」として予定通り10年で事業を終了する予定です。長い避難生活を経て復興公営住宅に入居した人たちが、再び「安住の地探し」をしなくて済むよう、早急に知恵を絞ることが求められています。

※1 世帯全員の1年間の所得の合計から公営住宅法上の控除を行なった額を12カ月で割った収入。

※2 2017年12月25日時点の試算。石巻市の復興公営住宅1LDKで11年目も政令月収0円の場合。

※3 2018年1月、石巻市は独自に低減期間を20年まで延長する方針を固めました。

## 会員生協の活動報告 & 予定案内

### 福井 大学生協

### 福井大学生協のメニューが、「アイデアメニュー祭り」でグランプリ受賞!

関西北陸地区の大学生協で開催した「アイデアメニュー祭り」において、福井大からエントリーした「甘辛唐揚げ」と「唐揚麻婆玉丼」の2つのメニューがグランプリを受賞し、12月15日に表彰式を行いました。

普段の大学生協の定番メニューは事業連合のメニュープランナー

が開発していますが、食育や組合員参加の機会としてとりくんでいる企画です。グランプリを受賞したことで、関西北陸地区の定番メニューとして、定期的に登場することになります。

来年も開催予定ですので、2年連続のグランプリを目指して、たくさんの組合員からエントリーされることを期待しています。

